

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872000845		
法人名	医療法人社団 弘成会		
事業所名	ライフ明海グループホーム		
所在地	兵庫県明石市藤江205-3		
自己評価作成日	平成26年5月20日	評価結果市町村受理日	平成26年7月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館 6階		
訪問調査日	平成26年6月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院である為医療との連携ができていますので急変事の対応もスムーズに行える。訪問看護師の助言を受けながら健康管理を行っている。利用者一人ひとりの思いや希望に添ったケアを心がけ安心して日常生活がおくれるよう支援している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所前は180度、海が開け淡路島が一望できる風光明媚なところである。事業所には、法人母体である総合病院と介護老人保健施設・通所リハビリ・訪問看護・在宅介護支援センターなどの併設サービス事業所が隣接しており、医療連携体制が整っているため、利用者や家族に対して安心と信頼を与えていることが窺える。利用者の看取りに関する指針及び看護職員不在時の介護職員の対応の在り方が確立されており、全職員が共有して利用者に対する支援に取り組んでいる。昨年度は3件の看取りケアを行っている。また、事業所は毎月末に当月の利用者の状況を詳しい報告書にして家族に知らせ支援している。報告内容は身体の様子・介護の状況・日常生活・介護計画(当月の状況・次月の計画)などである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、実践に向け取り組み支援している。	「普通の生活をする」「出来ることはする」「地域の行事や馴染みの人とのふれ合い」「笑いと楽しみの生活を」の理念を壁に貼り、ミーティングなど話し合いの時に理念に立ち返りながらケアを実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と離れているが、近隣の小学校等の行事に参加している。	小学校の行事に参加したり、習字・手話・唱歌・ハーモニカ等いろいろなボランティアの訪問を受けたり、実習生を受け入れたりしている。自治会には加入しておらず、法人の在宅介護支援センターが地域との交流の窓口になっている。	地域密着の原点に立ち返り、馴染みの地域の中での生活を送るため、日常的に事業所から発信する地域への交流について検討してはどうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体の勉強会、家族会等を通して行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員や家族からの意見や要望等をサービスに活かすよう心掛けている。	以前は利用者代表や民生委員等の参加のもと、2ヶ月に1回は開催できていたが、徐々に参加者が多忙になったり、都合が合わないことが増え、現在は開催できていない。	地域密着型サービスの一つであることに鑑み、利用者や地域の代表や行政との意見交換を行って、よりよい事業運営を図るために、会議再開の取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは連絡を密に取り、協力関係を築くよう取り組んでいる。グループホーム部会にも何回か参加してもらっている。	明石市介護サービス事業者連絡会には2ヶ月に1回、法人代表が出席している。市の担当者とは、法人代表が問い合わせたり、具体的な説明を受けたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを実践している。	身体拘束をしないケアを実施していることを説明したり、契約書に明記したりして、理解を得ながら実践している。法人で行われる研修には平成23年度に参加して伝達研修を行い、資料を回覧して周知を図った。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努めている。	昨年法人全体で虐待についてのアンケートを実施しているが、事業所としては虐待関連法などについてやその防止についての研修は行っていない。	虐待についてさまざまな知識について、より理解を深めるために学ぶ機会を持ち、職員の意識を改めて高めて欲しい。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解はしている。 市よりの冊子、広報誌等にも載せている。	成年後見制度や日常生活自立支援事業についてのパンフレットを常時設置し、説明したり質問を受けられる体制を整えている。法人の広報誌にも掲載し、家族に届けたりしている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所・退所に関わらず、相談する機会を設け、本人及び家族等に十分説明し理解、納得を図っている。	入居に至るまでに、見学に来てもらったり、自宅や入院先に訪問したりして説明し、理解してもらった上で契約を結ぶようにしている。契約後もわからない内容について、説明を繰り返したり納得してもらえるよう配慮している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人及び家族等からの意見、要望を面談時等に聞き、その都度話し合いの場を設け、思いに添うような対応をしている。	入居者自身からや家族の面会時にや支払い時に家族からも、意見や要望を聞くようにしており、リハビリの希望や郵便物の管理など相談しながら対応している。また、女性の入居者ばかりなので、希望に応じて男性職員の配置を変更したこともある。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題点が出た場合は、すぐに話し合いの場を設け、改善する案を出し合い、より良いケアを目指し工夫しながら実践している。	朝や夕の引継ぎや、月に1回のミーティングの時に職員から直接いろいろな意見や希望を聞くようにしている。夜勤の対応が困難な時は一時的に応援の職員を増やしたり、リネン交換の曜日を変更したり、状況に合わせて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算1を届出。就業環境・条件整備に努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の勉強会、講習、職員一人ひとりのスキルアップに向け資格取得等進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成23年7月よりグループホーム、小規模多機能型居宅介護部会開催。3ヶ月に1度開催し、情報交換等行っている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の居室で思いや訴え等を聞き安心してもらえるように心掛けている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時は必ず、声をかけて家族等の思いや要望をよく聞き、相談しながらサービス導入を行っている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応として、まず必要と思われる支援を見極めるよう努力している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でちょっとした工夫、節約、昔ながらの方法等教えたり、教えてもらったり、意見を出し合ったりしている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の会話の中で利用者の思いや希望を面会時家族に伝え、可能な限り思いに添えるようお願いしている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族等の希望により孫、ひ孫帰省時、外食、外泊等で気分転換を兼ねて楽しんで来られている。近隣の知人も面会に来られたり、外出先で待ち合わせたりされている。	近所の人や友人、孫やひ孫などが来られたり、同級生がホームに来所して同窓会をしたり、馴染みの人との交流を大切にしている。また、馴染みの美容室で毛染めができる支援もおこなっている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく会話する機会を大切にし、スタッフが見守りを行っている。難聴者にはスタッフがパイプ役となり関わり合えるよう支援している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も気軽に立ち寄って頂く様声掛けをし、相談や近況報告を受けたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望等日々の会話からくみ取るようにしている。相性の良いスタッフに希望や思いを伝えている事もあり、情報を共有し把握に努めている。	その時々入居者の思いや希望を出来るだけ聞いて対応するようにしている。意見を表出しにくい人にも、ゆっくり向き合って話を聞くように努めている。それぞれの思いをスタッフ間で共有するため、個人カルテに記載している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等得た情報はアセスメントに記入し、情報を共有している。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人に声掛けを行い、動作や声のトーン表情等を観察し、現状の把握に努め、その日の状況に合った対応を心掛けている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態を本人、スタッフと話し合いながら、本人の意向に添ったケアを中心に介護計画を作成している。	本人や家族の希望をふまえながら、職員で話し合い計画を作成している。また、3~6ヶ月毎にその必要性に応じて見直しを行っている。月末には、担当職員がADLや暮らしの様子などをまとめ、家族にも送付して知らせている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等は個人カルテの介護記録に記入し、情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院併設介護老人保健施設と介護保険サービスを複数運営しているのでその時々々のニーズに対応できている。柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的又は不定期にボランティアグループ等来所してもらい、利用者や家族は交流を楽しみにしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を希望する場合は診察等を受けやすいよう配慮をしている。結果も家族より報告してもらっている。	入居前からのかかりつけ医を希望されれば継続し、家族の付き添いで受診できている。生活の状況を医師に伝達しやすいうに家族に書面を渡したりして伝え、受診の結果は家族から聞き連携に努めている。希望者には法人内の病院へ職員が介助して通院できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師による健康チェックを実施、気になる利用者の状態を伝え助言をもらっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人内の地域医療連携室を通して行っている。	入院された病院の連携室を通じて入院中の様子を聞き、状況により退院に向けての意見交換を行っている。できるだけ早期に退院してリハビリを継続することで、ADLが改善したケースもある。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時の対応や看取りに付いての同意書を入所時に説明し希望を確認している。	入居時に急変時の対応や看取りについての同意書を交わし、意向の確認を行っている。また、状況の変化時にも適宜確認するようし、その意向に沿って対応し、今までホームで3名の看取りケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルに添って対応している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の夜勤者対象の防火訓練。利用者と一緒に避難訓練も行い、スプリンクラーも設置している。	事業所としての避難訓練を年1回行い、法人内でも年2回、設定を変え防火訓練を行っている。災害時の想定をふまえシミュレーションを行っている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの対応に気を付け、認知症である事とその人のプライドを傷つけないような声かけを工夫し、情報を共有して職員全体で対応している。	法人内で行う接遇の研修に参加している。入居者の一人ひとりの誇りやプライバシーに注意しながら、声掛けの言葉も注意して、誘導したり介助したりしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた意思決定の場面を作るように工夫している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムスケジュールはあるが、利用者本人の希望に添うよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔で季節に合った衣類を着てもらえるようさりげなくアドバイスをしている。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みやリクエスト、季節らしい献立になるよう工夫している。 負担にならないようお手伝いしてもらっている。	朝食と夕食は併設施設の厨房で調理されて運ばれてくる。昼食については、以前は事業所で利用者と職員と一緒に調理していたこともあったが、現在は職員が調理している。利用者がテーブルを拭いたりすることはある。職員は利用者と同じテーブルと一緒に同じものを食べている。	食事の一連の過程は利用者の五感刺激の効果があり、利用者一人ひとりに応じて持てる力を引き出す絶好の機会である。利用者が調理に関わるなど食事を楽しむ支援の取り組みに期待したい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量のチェック表で確認している。管理栄養士、看護師と相談しながら症状に合った支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣として身に付いている人、声掛け見守り、準備等が必要な人、介助が必要な人等それぞれに合った支援をしている。			

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便通の薬の調整、排泄パターンを把握し、一人ひとりに合った支援をしている。夜間帯も希望の時間にトイレの声掛けを行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンをチェックして、利用者各人に応じた声掛け・誘導・トイレ介助を行いながら、トイレでの排泄を支援している。現在は、おむつの方はゼロで、全員がリハビリパンツ・パッドまたはショーツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で確認し、医師、看護師と相談しながら、飲食物の工夫、水分補給、腹部マッサージ等その人に合った支援を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日はあらかじめ決めているが順番はその日によって違う。一人ひとりゆっくり入浴してもらっている。体調に合わせた足浴、清拭も行っている。	利用者は週2回午後入浴を楽しんでいるが、利用者の希望があれば事業所は入浴日を増やす対応も可能である。体調に合わせて居室で清拭や足湯で支援することもある。入浴拒否の方にはこたばを替えて誘導している。入浴剤の使用や柚子湯などで入浴を楽しむ工夫もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝不足だったり、体調が思わしくなかったりした時は居室で静養してもらっている。その人に合った支援を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	母体病院医師、看護師、訪問看護師等に相談し、調整してもらっている。その記録もカルテに記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫、編み物が得意な人、絵画や書道が好きな人、歌が好きな人等楽しみごとを活かせるよう、その人に合った支援をしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族と一緒に買い物、食事、ドライブ、外泊等の支援。散歩や中庭での日光浴もしてもらっている。	事業所目前は林崎松江海岸と瀬戸内海に面しており淡路島が一望できる風光明媚な場所にある。天気のいい時は利用者数人が事業所付近を散歩している。併設施設の通所リハビリや散髪に通う方もあり、時には買い物・花見・明石公園の菊花展・石ヶ谷公園などへ外出の支援をしている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかい程度に所持されており、日常必要な物や買い物ツアーの時の購入品の代金など支払う時に支援している。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の家族等の面会が多い為利用する人は少ないが電話をかけたい人は詰所からかけてもらっている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前に椅子を配し、花が活けてあり、デイルームは自由に使える、マッサージ機も好きな時に使用できる。新聞も自由に読んでもらっている。	玄関ロビーに観葉植物や季節の花が生けられ、棚には干支の置物やウサギの縫いぐるみが飾られている。食堂・廊下・デイルーム・浴室・トイレなどの共用空間の採光・温湿度・においについても適切に管理され、気持ちよく過ごせる工夫がされている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間はドアがいつでも開いていて自由に使用できる。テレビを観たり雑談したり思い思いに過ごしている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は使い慣れた家具、時計、絵、孫・ひ孫の写真等飾ったりして心地よく過ごせるよう工夫している。	入り口の表札横に、もう一つ分かり易いように手作りのひらがなの表札が架かっている。居室内は明るく、置時計・テレビ・家族の写真など、利用者めいめいの馴染みのものが持ち込まれ、習字・塗り絵などの作品や季節の花が飾られており、居心地よく過ごせる配慮が見られる。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合った支援を心掛けできる事、一緒にすればできるかもしれない事等工夫しながら継続して行えるよう支援している。		